

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



潮騒JTC夏の風物詩「真夏の海プログラム」イベントが8月8日、潮騒JTCの下津ナイトケア施設(鹿嶋市宮津台)にほど近い下津海水浴場で取り組まれ、砂浜でのスイカ割りや相撲遊びで仲間達が交流を深めました。また女性ハウス「るみの家」でも8月14日、女性メンバーが施設から比較的近い日川浜(につかわはま)海水浴場に繰り出して真夏の海プログラムを堪能しました。

2016

8

今夏の総括と意見

～リオ五輪と障害者施設事件から



厳しい残暑の中でも朝晩は過ごしやすくなりました。今年の夏を振り返ると、4年に一度のリオ五輪に沸いたことが、まず挙げられます。空前のメダルラッシュの原動力となった柔道、競泳、体操、卓球、バドミントン、レスリング、陸上(男子400mリレー)…。その他マイナー競技も含めアスリート達の活躍に何度感動を覚えたことでしょう。女性選手の活躍が光った大会でもありました。五輪憲章にあるように、オリンピックはメダルを争うスポーツ大会ではないと分かっている、会場に日の丸が掲揚され、君が代が流れると、にわか国家主義者よろしく何とも誇らしい気分になりました。「最後まで諦めない」「自分の限界に挑む」姿には掛け値なしに敬意を払いますが、私達アディクトは「頑張る」ことが苦手です。スリップの落とし穴が待ち受けていることが多く、“ほどほどの頑張り”で生きられる社会の方が性に合っているからです。でも、想像を超える重圧の中で、若い選手達が競技を「楽しむ」ことを力説していたのは好感が持てました。あれだけTVの前で熱狂したのに、私達は今回メダルを獲得した選手達の名前を数年後には忘れていく“いい加減さ”を持ち合わせています。4年後の東京大会の成功も大事ですが、私達の立場からは五輪に続くリオ・パラリンピックの報道にも力を入れてほしいと願います。そこには「障害者とは何か」の深い問いかけがあるからです。

もう一つ、この夏忘れられない事件がありました。リオ五輪に先立つ7月26日未明に起きた、障害者19人が殺害された相模原市の障害者施設事件です。過去に例がない障害者を狙った、典型的な「憎悪犯罪」(ヘイトクライム)との見方が強いようです。私達アディクトが無視しえないのは、容疑者が過去の病歴に大麻使用による後遺症で薬物性精神病と診断され、障害の種別は違っても抵抗できない重度の知的障害者に牙をむいたという点です。今後裁判で動機が語れることを期待しますが、極めて特異な事件にもかかわらず一時の悪感情が世間を席卷して、依存症と精神障害者への厳罰化が安易に叫ばれる空気が増幅していくことに懸念を抱きます。単なる回復施設の責任者に過ぎない私ですが、指標を失った社会の病理と無関係には思えません。今回は個人による重大犯罪ながらも、かつてのオウム事件や3・11巨大地震など“タガが外れた”社会の流れに位置する事件との予感を抱きます。容疑者が刺青を入れ、ヒトラーが憑依したとうそぶきながら、優性思想に囚われた「障害者は生きていても意味がない」という主張を口にした背後には、「(社会の)役に立たない奴は敵だ、殺せ!」とする理不尽で荒唐無稽な憎しみが張り付いています。これに習えば、世間から「役立たずのアル中、ヤク中」「生活保護を受けた無駄飯食い」と見られている私達アディクトは、同じように殺害、抹殺対象になります。人々の常識や人倫の体系が崩れた時代だからこそ、安易に「狂気」で事件を読み解くのではなく、識者の英知を結集して冷静に事件を分析してほしいと願います。

(センター長 栗原 豊)

真夏の海プログラム

真夏の海プログラム&BBQ 大会で仲間達が夏を満喫



潮騒JTC夏の風物詩「真夏の海プログラム」イベントが8月8日、潮騒JTCの下津ナイトケア施設(鹿嶋市宮津台)にほど近い下津海水浴場で取り組まれ、砂浜でのスイカ割りや相撲(プロレスごっこ?)で仲間達が交流を深めました。昼食時には下津施設の駐車場に移動して人気のBBQ(バーベキュー)大会があり、食欲旺盛な仲間達の胃袋を満たしました。この日は天候も曇りがちで、日川浜キャンプ場での「灼熱地獄」だった昨年の反省から地元会場としたのに加え、今回も準備に専念したスタッフの活躍が光りました。

海水浴には男子メンバー約80人が参加、実際に海に入ったのは10数人でしたが、肌を刺す真夏の太陽が雲によって遮られたこともあり、多くが堤防に座り込んで海を眺めたり、心地よい潮風を感じていました。中にはまどろむ仲間もいて、カラフルなパラソルが並ぶ砂浜や波しぶきに歓声を上げる海水浴客を横目に、それぞれのスタイルでシーズン最盛期の海を楽しみました。スイカ割りでは、周囲のスタッフがわざと違った方向に誘導したりして笑いを誘っていました。相撲では腕力に自信のある入寮者が熱戦を展開し、柔道部の経験のある若手同士がぶ

つかり合うなど好試合が繰り広げられました。

BBQ(バーベキュー)大会では、潮騒農場で収穫された新鮮野菜が「活躍」し、肉がふんだんに用意され、焼き上がるたびに長い列が出来ていました。この日は業務用大型鉄板のバーナーの調子が悪くなるハプニングに見舞われましたが、その分スタッフらが汗だくになりながら懸命に肉や野菜、焼きそばを炒め、チームワークの良さを感じさせました。遅れて参加した栗原センター長は「これだけの人達の食欲を満たすには事前の準備や段取りが大変。スタッフらの努力には頭が下がる」とねぎらっていました。

スタッフの一人は「潮騒は大人数だけに移動の苦労などを考えると、今回のようにすぐ近くの下津海水浴場でやるのが一番。せっかくの海水浴イベントなのに海に入る仲間があまりいなかったのは残念だったが、まあ潮騒は高齢者が多いから、トラブルや不慮の事故を考えると仕方がないね。我々下支え役からすると準備や当日の運営などで苦労は多いが、仲間同士の絆を深める意味からも季節感を反映したこうしたイベントは今後も大事にしたいね」と話していました。



松葉杖をつきながら司令塔として 準備に奔走した

潮騒 JTC 恒例の「海水浴&BBQ」イベントが、今年は8月11日(祝日、山の日)にありました。私はデイケア施設の責任者ですが、なんと実行委員長?に祭り上げられてしまい、1週間前ぐらいから食材の調達など下準備の手配に追われました。仲間達からは「司令塔としていればいいから」と言われました。というのも私は今年、椎間板ヘルニアを患い、足の痛みやしびれなど松葉杖をつきながら悪戦苦闘の毎日なのです。ですから司令塔とはいいながら、今回みんなと一緒にあれこれ準備したり、肉や野菜、そばを焼いたり炒めたり、肝心の海水浴すらできない状態なのです。とても残念でなりません。

昨年までは一緒に何もかも出来たのが、今回はまったく何も出来ないもどかしさ、苦しさがありました。しかし、これも神(ハイパーパワー)の計画なのでしょう。「ツカには休息が必要なのだよ」という啓示的な“指導”なのだと考えています。ですから、当日は全体の様子を見守りながら比較的ゆったりと見構えることができ、久し振りに仲間と思い切り BBQ を楽しむ事ができました。言うまでもなく、“ぶっつけ本番”が潮騒の流儀です。困難と思えても不思議なもので何とかなる、何とか出来てしまうのです。この団結力こそが潮騒の持ち味です。

前半の下津海岸での相撲大会やスイカ割りは見学できず残念でしたが、海水浴チームが正午頃に下津駐車場に戻り、みんな楽しそうに食べている姿を見て、私はホッとしながら、無事に終わる事を願っていました。今回は実行委員長として至らない部分があり、反省すべき点がたくさんあります。でも、仲間を信じ、お任せし、仲間の力を借りながら無事成功のうちに終わることができました。仲間感謝です。特に感動したのは、後片付けをした農業隊、作業隊のチームワークの良さです。そんな素晴らしい仲間達と毎日過ごせる事が、私の一番の特効薬です。



みんなが凄く食べまくっていた 下津での BBQ 大会

今年の海プログラムは下津海岸海水浴場だったけど、力自慢の入寮者による相撲大会やスイカ割りなどイベントがたくさんあり、みんな楽しめたと思います。神栖の日川浜海水浴場に繰り出した昨年の海プログラムとは打って変わり、今年は真夏のギラギラした太陽が雲に隠れて、比較的過ごしやすい中での海水浴でしたが、日焼けで体が真っ赤な仲間達が痛々しく見えました。背中彫り物がシャツからはみ出た仲間達も多くいて、潮騒 JTC らしい

海水浴でした。家族連れの海水浴客など周囲からは多少、私たちの一団は浮いた存在だったかな? でも、その後に下津ナイトケア施設の駐車場で行われた BBQ 大会は圧巻でした。予期しない機材トラブルでスタッフは大変だったようですが、そんな苦労をよそにみんなもの凄く食べまくっていました。焼きそば作りが、みんなの食べるペースに間に合わないくらい人気でしたね。今年は例年にない成功だったと思います。やはり戸外で仲間が一堂に会する BBQ 大会は格別でした。準備に奔走したスタッフの皆さんに感謝です。総合評価は三重マルをあげたいです。



みんなで取り組む BBQ イベントの意義を実感

潮騒 JTC 本部のある下津ハウス駐車場で行われた BBQ 大会に参加しました。午前中は10時頃から2時間ほどでしたが、みんなで下津海浴場に繰り出して恒例の「真夏の海プログラム」の海水浴イベントがあり、海ではボディボードで遊ぶ仲間達、砂浜ではスイカ割り、相撲などを楽しみました。曇りがちの天候だったので、焼け付く暑さをしのげました。遊び足りない仲間もいたようでしたが、楽しそうな仲間の顔を見ることができて、久し振りにみんなが交流を深められたと思います。BBQ 大会ですが、仲間達が協力し合いながら準備をし、汗だくになって火を起こし、熱した鉄板で肉や野菜、焼きそばを作り、次々に提供していました。準備する方は大変だけど、おいしそうに食べている仲間達の顔を見て、こんな風にみんなで取り組む BBQ イベントの意義を実感できました。大きなケガや事故に繋がるトラブルなどはなく、無事に終えることができたので、ホッとしています。とても楽しい1日でした。また来年もぜひ参加したいです。



るみの家の女性メンバーも 日川浜で海水浴イベントを実施

女性ハウス「るみの家」でも8月14日に、風邪で体調を崩して不参加だった二人を除く入寮中のメンバーが参加し、施設から比較的近い日川浜(につかわはま)海水浴場に繰り出して真夏の海プログラムを堪能しました。男性施設と違って朝から自分達でお弁当を作り、浜辺ではお腹を満たしながら波に乗ったり、砂浜で遊んだり、寝そべてまどろんだして、それぞれが真夏の日を楽しく過ごしました。女性ハウスも含め、潮騒は海に近いという地の利を得ている事から、サーフィンなどいろんな形で海プログラムに取り組んでいます。

やはり真夏の海水浴は最高です。ここは鹿島灘を望む、遠浅で泳ぎやすいのが特長です。透明度が高くきれいな事から、下津海水浴場も日川浜海水浴場も県外からも訪れる海水浴客が多いとの事です。

しま 本を読む予定が海に入って波に乗って楽しかった

私達女性ハウスのメンバーは8月14日、海プログラムで日川浜海水浴場に行ってきました。実は、この日に海に行けた事は、私ともう一人の“かまど”従業員にとってはとても重大な事でした。私達はこの「お盆休み」を逃すと、他にろくに休みが取れないからなんです。その代わり、この日をとても楽しみにしていた二人が風邪を引いて、海に行くことができなかったのです。誰もがメンバー全員で行きたいと思う中、二人を置いていくことはとても残念でした。「ごめんね」と心の中でつぶやきつつ、海に向かいました。

車で2、30分で海水浴場につくと、まずブルーシートを広げてまだお昼前だというのに、おむすび弁当を食べた上に「氷水も食べたいよネ」なんて言いながら海の家で少しゆっくりしました。海の家でゆっくり本でも読もうかと考えて本を持っていったのですが、打ち寄せる大波を見てみると、その気にもなれず海に入ろうという気になっちゃいました。皆が凄く楽しそうに生き生きとしているのを見て、そう思ったのかもしれませんが。実際、海に入って波に乗ってみると、とても楽しかったです。「るみの家」に帰ると施設長がカレーを作って、待っていてくれました。おいしい辛さのカレーでした。今日一日に感謝。

かこ ルミさんが夕食を作って私達を待っていてくれた

るみの家では夏のイベントプログラムで日川浜海水浴場に行きました。女性ハウスならではの、昼の弁当作りから始まったのですが、おかず担当の二人が玉子の殻をむく、むかないでもめ、ウインナーを焼く、ボイルするでもめ、まあ言い合っていました(笑)。私はるみの家に帰って来て約2週間、それまで1カ月の間、留置、病院生活をしていました。自らのルール破りから、逃げ込む形でここから離れていて、果たして海水浴に体がついていくだろうか心配でした。けど仲間って凄いですね。ウエルカム・ミーティングを始め、海でも一緒になって大騒ぎ。20代から50代まで各メンバーが荒波にもまれて時には塩っ辛い海水を飲むなどして、本当に貴重な一日を過ごしました。

そして、それだけでは終わらなかったのです。なんと施設長のルミさんが夕食を作って私達を待っていてくれまし

た。メニューはカレー、サラダ、プリン…で、遊び疲れて帰宅した仲間達は「ルミさんありがとう!」の気持ちで食べました。でも、カレーの辛い事、辛い事、汗をダラダラかきながらカレーを口に入れては麦茶、サラダ、プリンを食べて辛さを中和させました。“お姉様”方はカレーの辛さがよかったらしく、喜んでいました。風邪を引いて休んでいる仲間もいましたが、「次があるし、また皆で行きたいネ」と仲間同士で話しました。こうした雰囲気と気が休まる空間が私はとっても好きです。来年はどんなメンバーで行くのかと想像するだけでハッピーになれます。

マコ 仲間達と弾けることで海って本当に素敵だなあと実感

朝から真夏特有の日差しが差し込む中、8月14日に様々な年齢層の仲間達と共に、シーズン真っ盛りの日川浜海水浴場に行きました。女性ハウスは比較的海に近いという地の利を得ている事から、サーフィンなどいろんな形で海プログラムを組めそうですが、やはり真夏の海水浴は最高です。ここは鹿島灘を望む、遠浅で泳ぎやすいのが特長です。透明度が高くきれいな事から、県外からも訪れる海水浴客が多いとの事です。

この日オーシャンブルーの海に飛び込んだ瞬間は最高でした。仲間達と目いっぱい楽しく弾けることができて、海って本当に素敵だなあ、と実感しました。心が洗われる思いで、今まで胸に詰まっていたものが、波の音で溶けていくようにも感じられました。各自がそれぞれの思いを抱きながら、心一つになって波と戯れていました。クスリやアルコール、ギャンブルなしでも有意義な時間が過ごせるのです。こんな楽しいひと時を共有できる仲間を、本当に大切にしたいと思いました。今日一日に感謝です。有難うございました。

いるか 海に入るのは何年かぶりです子供の頃に帰った感じ

8月14日に、夏の海プログラム(海水浴)で日川浜海岸に行ってきた。施設でのお弁当を作りから始めて、海に着いたら午前10時頃から、みんなお腹が空いたと言って、まずは腹ごしらえとお弁当を食べてから海に入りました。私は海に入る予定ではなかったけれど、仲間を誘われて入りました。波が結構あって流されたりしましたが、とても楽しかったです。

海に入るのは何年かぶりです、子供の頃に帰った感じでした。また行けるみたいなので、それも楽しみです。折悪しく風邪を引いてしまった仲間もいたのですが、次には一緒に行け

と思います。みんなでまた海を感じられればいいなあ、と思います。

わいこ **ビーチバレーでは年甲斐もなく はしゃぎ大声を出した**

8月14日(日)に海プログラムで日川浜(につかわはま)海岸に行き、みんなと海水浴を楽しみました。神戸市によると、ここは風車が望める、白い砂浜と眺めの良さが特徴で、海水浴はもとよりサーフィンや釣りなど年間を通して楽しめるとの事です。駐車場もシャワーも無料なので利用しやすく、近くには市営の「日川浜オートキャンプ場」があり、昨年には男性施設がここで海プログラムに取り組み、BBQと海水浴で利用した場所です。

当日は少し曇りがちの天気、焼け付く日差しよりもかえって過ごしやすい海水浴日よりで、とても一日楽しく過ごしました。ビーチバレーでは年甲斐もなくはしゃぎ、大声を出し、走ったのですが、気持ちとは裏腹に体は付いていかず、「日焼け」という太陽からの恩恵も頂き、健康的な体と気持ちを受け止めました。

たかこ **みんなで真っ赤に日焼けした 記憶は当分忘れない**

すごく楽しいプログラムを与えて頂きました。8月14日の真夏の海プログラムです。みんな塩かっらい海の水に入り、打ち寄せる波に乗り、歓声を上げました。時どき誰かが波にのまれていましたが、その光景が楽しくてしょうがありませんでした。海に入っては砂浜に戻り、それを3、4回繰り返していたら、凄く日に焼けてしまいました。その後の数日は、痛みに耐えましたが、私は久しぶりに笑った感じがしました。とても楽しい一日になりました。仲間に浮き輪を被せて、無理やり引っ張って海に入れたり、みんなで真っ赤に日焼けした記憶は当分忘れないでしょう。来年は、ぜひ風邪で欠席しハウスに残る仲間がいないようにしたいです。みんなが楽しめる海プログラムに感謝です。

めい **得意の唐揚げを ダラダラ汗をかきながら揚げた**

当時は、朝から私達の海プログラムが始まり、慌ただしく仲間とお弁当、おにぎり作りに追われました。おかず担当の私は、得意の唐揚げをダラダラ汗をかきながら揚げました。そして予定より少し早く日川浜の海岸に着き、海にダッシュ。黄色い声を張り上げて海で遊水する仲間達…。私は海に入らないと決めていたので、それらを眺めては

ゆっくり座ったり、寝転んだりしていました。

ところが突然、仲間に起こされ、浮き輪を被せられ、引っ張られて海にドボン！ 普段着だったのでビックリ、びしょ濡れになり、途中からは諦めて思い切り楽しんでいる自分がいました。そんな風にして、違う仲間も次々に海の中へ。みんな子供のようにはしゃぎ、帰る頃には顔や肩が真っ赤になっていました。そしてハウスに戻ると、施設長が作ったスパイシーなカレーのメニューが待っていました。この日は、朝から晩までみんなと一緒に全力で笑い、走り、泳ぎ、楽しみました。体調不良で海水浴に行けなかった仲間は残念でしたが、素晴らしい一日を過ごすことができました。

なあな **波に流されやすい海水浴場なので 手をつないで海に入った**

8月14日は楽しみにしていた海プログラムで、入寮中のメンバー(二人は病欠、残念だった)で日川浜海岸の海水浴場に行って来ました。私は朝からおにぎりを作りました。熱くて、熱くて、時おり嫌になりながらも、みんなのために頑張りました。そして準備が終わると、前日に買った浮き輪をはめて、いざ出発。海水浴場が思ったよりも近くて驚きました。海に着くなり砂浜に大きなレジャーシートを広げて、さっそく海に飛び込みました。波が凄く流されやすい海水浴場なので、みんなで手をつないで入りました。何度も何度も波に襲われながらも、キャーキャー叫んでとても楽しかったです。

お昼ご飯もみんなが美味しく食べてくれて、とても嬉しかったです。途中、私は寝てしまいました。気持ちよくしていたら、突然に起こされ、海に連れていかれ、いつの間にか仲間とキャーキャー言いながら、めいっぱい遊びました。ビーチボールもやり楽しかったです。こんがり日焼けして少し肌がピリピリ、全身筋肉痛…。でも、とても楽しい思い出ができました。来年もまた行けたらいいなあ、と余韻に浸っている自分がいます。



男女混合交流会& 自助グループ・バースデイ

テンパってしまった交流会での 踊りパフォーマンス

クリーンバースデイ交流会の2カ月前くらいに、仲間から声を掛けられた。「エビちゃん、バカになれる?」と。私はピン!と来た。と同時に、「これ以上バカにならねえよ…」と心の中で思った。話を聞いてみると、交流会の余興で踊りをやるという。踊りなんか、小学校のフォークダンス以来だ。その後はしばらく踊りの話はなかったので、立ち消えたと思っていたら、1週間前になって「練習やるよ!」と。私は「ふざけんなよ」と心の中でつぶやいた。仲間は「どんなもんだか少しやってみて、それからやるか、やらないかを決めればいい」と気楽に言う。私は一気には覚えられないので、すこしずつ練習を始めた。仲間二人は一通り踊れるようになったので、私は焦った。踊りの形はどうでも、自力で踊れなければと頑張ったが、最後まで覚える事ができなかった。練習では、横目でチラ見して何とか仲間に合わせていた。

しかし、当日の本番ではサングラスを掛ける事になった。その色が真っ黒だった。当日、サングラスを渡されたので、すっかりテンパってしまった。黒すぎて横をチラ見できなくなってしまったのだ。本番の数分前、仲間に「全部すつ飛ぶかもしれない」と訴えると、「その時は何もしないで立っていればいいよ」と言ってくれた。少しは気楽になった。自分達の前はタッチちゃんのギター演奏だったが、とても聞いている余裕などなかった。そして、いよいよ自分達の出番になり、踊る曲が流れ始めた。前半は自力で何とか踊る事ができたが、後半はグタグタで、自分だけがワンテンポ遅れているのが分かった。でも、隊の仲間の応援のおかげで盛り上がる事ができました。本当にありがとう。(エビ)

出し物の練習があんなに毎日続いたのも 納得できた

仕事を終えてからの参加は正直、疲れるかなあと思っていたのですが、結果は楽しかったです。この日のために出し物の練習があんなに毎日続いたのも納得できました。エイサーから始まり、各自の出し物にも力が入っていて楽しかったし、女子ももしかして百寿あたりに負けちゃうかも?と心配しました。でも、やっぱり一位を取る事もできたし、大満足でした。それからクリーンバースデイが始まったのですが、その人数をみて男性はスリッパが多いんだなあと思心し、結果的にセンター長とルミさんのケーキもごちそうになり、シアワセでした。年に何回かは、こういうイベントもいいなあと思家路(施設路)に就きました。ありがとうございました。(しま)

一番を狙ったみんなの出し物が とても面白かった

私達はバースデイの日のために、みんなで一生懸命に練習をしました。みんなで女を捨てて頑張ろうと、とにかく一生懸命にハンドベル、ダンス、わらい、といろいろ考えて一生懸命でした。そしてバースデーの日、エイサーから始まったのですが、仲間の頑張りに圧倒され、凄かったです。恥ずかしかったり、間違えたらどうしようと思った事だと思います。ですが、その仲間達を見て、男の人たちも火が付いたんだと思います。みんなの出し物がとても面白かったのですが、一番になりたいという気持ちが私達の気持ちは一緒だったと思います。なので、いつもの練習以上に頑張りました。点数が出るまでドキドキしました。どこが一番か、みんなでいろいろと話しました。その結果、私達が優勝しました。N1です。みんなで声を出して喜びました。すごく嬉しかったです。景品なんて考えることなく喜びました。満足した1日になりました。あとはクリスマス出し物です。それを考えていくところです。とにかく楽しい一日でした。(たか子)

エイサーはデビューだったので とてもドキドキだった

入寮して初めてのイベントで、入寮者が多いのにびっくりしました。私は会場に着くなり、エイサーにそなえて準備をしました。デビューなので、とてもドキドキしました。エイサーは本番で一回間違えてしまいましたが、楽しく演舞できました。出し物の時には女を捨て、全力でやりました。とても楽しく過ごせました。仲間みんなで力を合わせてダンスにハンドベル、そして自分達の恥じを「武勇伝」にして踊りました。7チームの余興には商品もかかっている皆、全力でお披露目していました。絶対に一位を取りたいと、女性メンバーが一丸となって頑張りました。結果、一位になりました。賞品の事より一位になればと祈り、それがかなった事に満足しています。「神様ありがとうございます」。クリーンバースデイでは6カ月のキータグをいただき、とても楽しく嬉しい一日でした。(なあな)

クリーン1年のバースデイを迎え 仲間達に感謝!

早いものでアツと言う間の1年でした。いろいろと学ばせて頂き、心より感謝致します。学びは苦ではなく喜びと言う事に気づきました。過去は消せません。変えられません。最悪の経験こそ最高の価値があります。自分自身を変え、新しい生き方(アルコールなしの人生)を送っていきます。しっかりと土台を作って、2年、3年…とクリーンを継続していきます。潮騒ジョブトレーニングセンター、栗原センター長、スタッフの方々、そして疑似家族(入寮者の仲間達)に心より感謝致します。本当にありがとうございました。クリーンバースデイで頂いた色紙、メダル、キータグは一生の宝にさせていただきます。(アル中のシゲ)

第8回「潮騒の名称変更は大人のいい知恵の出し方だった」

ユタカ vs トム 対談



——この対談も、だんだん佳境に入ってきました。今回は潮騒の名称問題を振り返ります。就労支援に特化したダルクをつくりたいという、栗原センター長の思いが現実のものになるきっかけとなった“事件”ですが、皮肉にも「栗原にダルクを名乗らせるな!」という身内からの一方的な攻撃が発端だったと聞いています。やっとの思いで荒波に船出した前身の「鹿嶋潮騒ダルク」でしたが、鹿嶋市郊外の農村部にあった元クリニックだった物件を手に入れ、リハビリ施設らしい活動に踏み出したのも束の間、今度は仲間と思えた一部ダルクから執拗に攻撃(口撃?)の火の手が上がった…。(司会進行・広報部)

やっとな息つける時期になって 問題が噴出

ユタカ そうですね。今振り返ると、名称問題への対応は私にとって、ある意味では賭けだったかもしれません。まったく予想していなかった事態でしたが、思いがけず名称問題が持ち上がりました。まあ、私が鹿島ダルクから独立した際にボタンの掛け違いもあってね、批判する側からすれば、その経緯が面白くない感情となつてずっと尾を引いていたようなんですね。

——ダルクの名称って登録商標でもないし、名乗るのにお金や資格が必要な訳でもないですよ。

トム フランチャイズ(営業権)でもないから、ライセンスの取得も必要ない。ダルクは自然発生的に設立されていくのが従来の流れで、だから最後は自己責任に帰せられる。そういう意味で本来は自由に名乗っていいはずなんです。ただ無用な誤解や軋轢が生じないような配慮は必要でしょう。それは営利事業でも一緒に、ルールに則った社会常識の範囲での仁義というか、信義誠実の原則が求められるのはどこの世界でも同じです。

ユタカ 私としては鹿島ダルクで内部矛盾を膨らませて爆発させるより、袂を別つことで自分のダルクをつくった方が生産的だと、単純に考えていたんです。実際、そういうふうに進み始めて、やっとな息つける時期になって問題が噴出したのは本当に驚きでした。

——批判や中傷はそう長くは続かないだろうと考えたんですか?

ユタカ 私はダルクってそんなに難しい所じゃないと思っていた。ヤル気があるなら自由にダルクを名乗ればいい、ぐらゐの考えしかありませんでした。私には、ダルクは曖昧さを認める懐の広さが身上という考えがあり、完全に高を括っていました。だから、そのうちに収まるだろうと静観していたのですが、各地のダルク代表が集まる公的な意味合いの会合でも根拠のない噂を吹聴するように批判が繰り返されました。私も過去には任侠道に命を掛けたことのある人間ですから、そっちがその気ならやってやろうという気になったのも確かです。

「これぐらゐの逆風にはへこたれないぞ」 という気持ち

トム ユタカさんの唯一の味方と見られていたので、僕もずいぶんと「どっちに付くんだ」と詰め寄られる場面がありましたね。当時は、とても悩ましかったですね。何度か突き上げを食らった形の近藤さんも同じように複雑な思いでしたが、いつの間にかこの問題は座視できないほどになっていました。

ユタカ その後も「潮騒はダルクじゃない。新宿のアル中のホームレスをかき集めて来ては生活保護を巻き上げる貧困ビジネスだ。栗原はそれをピンハネして儲けている。あれはダルクじゃない」、というような悪意の中傷は続いていましたので、もはや悠長に構えていては埒が明かない

など考えて近藤さんに相談したんです。

——それで近藤さんが仲裁に入る形で、現在の「潮騒ジョブトレーニングセンター」の名称に落ち着いた？

トム そう単純な話ではないんですが、近藤さんにも各地のダルクを代表する存在として難しい立場があり、どっちかに肩入れするという形はとれなかったんですね。ユタカさんも、批判する側も含め、全部がダルクですから。それに個人的な思い入れや長い付き合いもある。自分が権力者のように振る舞う発想なんて、もともとない人ですからね。というか、裁判所じゃないんだからダルクの発想として、もともとそれはありえない。

——名は体を表すじゃないですけど、「鹿嶋潮騒ダルク」っていうネーミングはとてもいいですね。どうなんですか、センター長。愛着のあった名前を変えることについては相当、抵抗感や葛藤があったんじゃないですか？

ユタカ 私からすれば、理不尽極まりない事態ですよ。ただ、私もリーダーとしてそれなりに成長していましたから「これぐらいの逆風にはへこたれないぞ」という気持ちは強かったです。それに勝ち負けという発想からも自由になっていました。立ち向かう壁が厚ければ厚いほど「なにくそ、まけないぞ」ってう感じでした。でも、その決意の背後には、やはり信頼するトムさんと近藤さんがいたからなんですけどね。

名称問題はハイパーパワーが突き付けた大きな試練

トム 僕はある程度内情を知っているだけに、潮騒が潮騒として自立していく過程は大変だったと思う。恐らくユタカさんが気持ちの弱い人だったら、決意がぶれ、心が折れてしまったと思う。あの嵐のような外圧によく耐えたと感じます。

——そうすると、潮騒の名称問題はハイパーパワーが栗原センター長に突き付けた大きな試練でもあった訳ですね。もしセンター長が譲らずに、あくまでダルクにこだわっていたら、パワーゲームのような不毛な対立構造を越えられなかったかもしれないですね。

トム 名称問題は当時のダルクのおかれた状況も味方したように僕は考えています。実はあの頃、ダルクが刑務所にメッセージに入れるようになり、刑務所からダルクに繋がる仲間が増えてきた時期でした。所内でも職業訓練は行われていますが、それが出所して社会に出てうまく生かせない。ムショ帰りという偏見に加え、せつかく刑務所で身に付けた技術が時代にそぐわなくなっていたんです。そうしたことから、ダルクでも時代に即した就労問題を考

えざるを得なくなり、遅まきながら「出口」問題がクローズアップされてきた。それで職業訓練について考えようと、工場などを何件か訪問して就労問題や職業訓練についてダルクでも検討を始めた時期だったんです。

——初発の試みは失敗したけど、奇しくも就労問題を掲げた鹿島ダルクにつながった栗原センター長が、息長く温めてきたテーマのビジョンに、やっと時代が追い付いたという訳ですね。

トム そういう時期に、タイミングよくユタカさんの名称問題が持ち込まれたもんだから、近藤さんが“茨城には結城に岩井のダルクがあるし、鹿島ダルクもある。もうダルクはいいんじゃないか。いっそ新しい発想でジョブトレにしたらいい。時代を先取りして、ユタカだったらきつとやれる”と。これは未来志向の大人の判断でしたね、いい知恵の出し方でした。さすが近藤さんと思いましたね。僕らとは発想が違う。これなら折り合いがつく。ダルクをつくった張本人がダルクの名前にこだわらないんだから。あの発想は実に素晴らしかった。

——その頃に開設された山梨ダルクも、当初はジョブトレーニングセンターの機能を持たせようと考えていたんでしょうか？

トム 2008年に開所した山梨ダルクは、準備段階でジョブトレ構想を描いていました。主に薬物依存症者の更生と社会復帰を支えるシステムづくりとして、当時20年の歴史を蓄積していたダルクの経験とノウハウ、関係団体との信頼によってダルクの「出口」問題に風穴を開けようとするものでした。あの頃は各地にダルクがつくられ、多様化してきたアディクトの「入口」問題が充実してきた時期なんです。ところが肝心の「出口」の方はほとんど手つかずのままでした。それだけにジョブトレ構想は意欲的な試みとなるはずでしたが、当時山梨ではそれを成就させるだけの客観的な条件や受け皿が十分ではなかった。結果、残念ながら実現には至りませんでした。やはりダルクに対する地元企業の理解や地域の幅広い支援が不可欠で、これは大きな反省点でした。それに困難な就労問題に挑むには、当事者側にも相当なパワーが必要です。

——栗原センター長には、そのパワーがあったと言う事になりますか？

トム 近藤さんも言ってましたが、「ユタカは他と違って動きが早い。何か事業家のような資質や行動力を感じる」と、ユタカさんの秘めたるパワーを評価していましたね。

ユタカ いやいや私は向こう見ずなだけ、怖い者知らずなんですよ。(この項続く)

受刑者からの手紙

センター長の真似はできないが私にも回復の可能はある！

セミの声も一段と増し、夏本番のこの頃と成りましたが、センター長はじめスタッフの方々お疲れ様です。これまでの手紙には知らず知らずの内に愚痴や処遇面・食べ物等の事等不満じみた文面を書いてしまい恥ずかしいです。と申しますのは、ある日担当さんが告知された言葉の中に、目標を達成出来る人は文句・愚痴等は言わない！ 達成出来そうにないから、文句・言い訳をする、との話に私の胸に感ずる物が有りました。先日ある同囚が、何処で聞いて来たのか「鹿島の潮騒へ行くのですか？ 実は私もお世話の成った事が有るけれど、何をするでもなく嫌に成ってしまっ飛び出してしまった」との事でした。折角のチャンスを無駄にして「中途半端な事をするから、今も又ここに居るんだヨ！」と言ってやりたい気もしましたが、私自身の立場を考えれば、それも言えず終いでした。

堀の中でと対談、毎日何頁か読まされて頂いていますが、堀の中での26Pに、私達のような者の“果ては刑務所か墓場、又は新しい生き方の道を”との一章が頭から離れません。遠回りと言えは聞こえが良いかも知れませんが、その事に気づくのが少し遅かった思いも有ります。センター長の真似はとてもできませんが、センター長が回復の決断をされた年齢に近いものがあり、私も回復が可能である！と勇気づけられています。そして私は今度こそ、それを可能にしなければ成りません。クスリから足を洗うための今回のチャンス、何としても達成する決意は変わる事は無いと言えますので、改めてご指導の程宜しくお願い致します。（神奈川県 O・T）

私にも平穩に生きて行ける地がある事を信じて前に進む

報告があります。先頃、帰住地の許可が出ました。今の私に残された唯一無二の帰住地は、潮騒ジョブトレーニングセンター以外にありません。結果が出るまでの間、心穏やかではありませんでした、「信じて待つ」だけの毎日でした。「人生に絶望する必要はない」、「人生を投げ出すな」、「依存症は回復出来る病気」この言葉一つ一つが、今の私の生きる糧となって居ます。「どんなに一歩が小さくてもゆっくりでも、歩く事を止めなければ、いつか行きたい所へ辿り着く」、私にも平穩に生きて行ける地がある事を信じて、一歩ずつ前へ進みます。

「潮騒は日本で一番難しい事に挑んでいる」、「スピリチュアル・コネクション」、「新鮮な刺激や社会復帰への動機づけを与えてくれる」こんなにも幅広く活動が続けている潮騒の生活の中で、私の根本的な悩み「自我や、歪んだプライド」を改め、「自分に真の謙虚をもたらし」事と成る。今は何も考えられず他人事の様ですが、私がこれから先、「人として」生きて行く中で、とても大切な事が、潮騒の生活の中に有る、と信じています。地道に生きて行く中で、それぞれに問題があり身体的に辛い場面があったとしても、仲間の手を借り、助けられながら、背中を追い求める事で、心が和らぐ事が出来るのであれば、私は生きて行ける。「自分以外の力に身を委ねる事で、クリーンの喜びに浸る」。依存者だから味わう小さな幸せ。これから先、何度も考える未来。それから、人としての成長。常識ある大人としての自覚がなければ、淋しい老後となる。

7月の茨城ダルクフォーラムで、代表の岩井先生が「自分に正直になれ」とマーシーに言われたとの事。道化師を生業としてきた人間にとって仮面を外すことは、とても勇気がいる様に思う。防具を外し、武器も持たないで、裸の自分を晒す。ダルクの生活なら、出来るのかも知れない。岩井先生の言葉は愛だと信じる。強く厳しい物であっても、絆があれば、お互いの心は結び合い、離れる事は無いと思うのです。「躓き」があっても今の私が居る。人生に絶望を感じながらも、薬物の欲求のまま55歳に成ってしまった。こんな私ですが、宜しく願ひ致します。

（茨城県 H・N）

依存症の回復施設である潮騒 JTC にとって、受刑者の皆さんとの文通形式によるコミュニケーションは、必要不可欠な命題とも言える重要な活動です。堀の中にいる仲間達は自分達を映す鏡であり、施設運営を巡って貴重な反省材料を提供してくれています。それだけに手紙の中にある「潮騒への批判」は無視することなく、有難いヒントだと考えています。

真面目に務めているのに 身柄引受人が決まっていない

私は現在、三十九歳ですが、二十代の頃から大麻・覚醒剤・コカイン・危険ドラッグ等に依存し、長年それらの薬物と関わってきました。前回の事件も覚せい剤を買う金欲しさに手を出し逮捕され全てを失い、今回の事件に関しても、危険ドラッグを買う金欲しさに犯行を行い、またしても全てを失ってしまったのです。私は、薬物と縁を切らねば人生の全てを失ってしまうと恐ろしくて成りません。が、私は自分一人の力で薬物を絶つ事が出来るとは、到底思えません。送って頂いたパンフレットを穴が開く程読み返し、考えた結果、潮騒ジョブトレーニングセンターのお世話に成るしかないかと本気で思った次第です。それと、私には所持金が無い為に生活保護を受けながらお世話に成りたいと思っています。その辺りの事も相談に乗って頂きたいのですが私の場合、もう一つ問題があります。実は、私は現在身柄引受人が決まっていません。せっかく真面目に務めているのに身柄引受人が決まっていない為、仮釈放の見込みがありません。その辺りの事も相談に乗って頂きたい、今回ペンを取らせて頂きました。どうか宜しくお願いします。

(神奈川県 N・Y)

悩みに悩んだ末に 仮釈での出所をやめる事にした

返事が大変遅くなり申し訳ありません。先日、面接が入り仮釈で出所した場合の条件等を改めて確認した所、職に就けないとの部分がどうしても、引っ掛かってしまいました。悩みに悩んだ末に考えた所、仮釈で出所する事はやめる事になりました。この時期に中途半端な気持ちのまま頼り、満期日が過ぎたら不義理をしたのでは、もっと迷惑を掛けてしまうと思いました。潮騒との繋がり大切にしたいならば不義理は絶対に駄目だ、との判断です。何卒お許し下さい。出所後にすぐお世話に成る事は無くなりましたが、正業に就き落ち着きましたら連絡したいと思っています。今まで受刑中の立場で潮騒の存在、活動には心から救われ、助けられました。真剣に逆の立場にて人生を送りたいとも考えました。栗原さんの考えには感服する思いです。また他の職員のしゅん様にも深い言葉を沢山頂き、自分自身の成長にもつながった事、深く感謝して居ます。代筆して頂いた方々にも感謝です。返事が来る、受信が有る素晴らしい、有難さ、心からお礼を申し上げます。

(東京都 S・Y)

出来る事を私は一つ一つ努力して乗り越えていこうと思う

7月も終わりに近づき北海道はこれからが夏本番、栗原センター長とユウキ君、お元気ですか？私は相変わらず元気に受刑生活をエンジョイしています。手紙、届きました。有難う。今と言う現実には自分の罪と向き合うために有るのかな、とも思います。覚醒剤ほど罪悪感が無い物は無い。誰にも迷惑を掛けず、自分に掛けた迷惑を”何故？”って思うのです。だから中々薬を止める事が出来ないのだと思います。私はもう28年間、薬だけを生業に生きてきました。薬を止めようと何度も思い考えて来ましたが、未だに止める事が出来ずに現在に至っています。薬を売る事を生業にしてきた自分には、これ以上美味しい”物”は無いと思います。そんな考えだから、止められないのでしょうか。自分の力ではどうする事も出来ない為、栗原センター長やユウキ君に助けを求めるのでしょうか。今までは”なせば成る”、そんな気持ちで生活をしてきたから未だにこの状態なのだと思います。残刑1年9カ月弱、しっかり考えセンター長の元に行きたいと思っています。どうか、私に力を貸して下さい。お願いします。北海道は朝や夜は18度位まで気温が下がります。日中は26度位で扇風機は必要ないです。それ位涼しいです。どうか、十分健康管理をして下さいね。

(東京都 O・T)

しおさい俳壇

8月のお題 赤蜻蛉

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.31

センター長 栗原 豊

明易し無音のままの刑舎群 | 老ひてこそ若きころを入道雲 | 終戦日父似の顔に白い髭

囚われの身にある者にとって夏をどう乗り切るかは深刻な問題だ。当然ながら刑舎には冷房などではなく、夏場でも入浴回数はひどく制限されているから、受刑生活が不快な事は言うまでもない。私が最後の受刑生活を送った15年前の夏は全体としては比較的、冷夏だったようだ。姪宛ての手紙に、私はこう書いている(8月18日発信)――。

「この夏もここにきて涼しい日が続いているので、この中に居る者にとっては大助かりです。一時は40度近い日があってどうなることかと思っていましたが、ここまでくれば暑さももう少しなので、なんとか頑張り切れそうです。

お盆休みは11日、12日の土日を含めて5日間の休みでした。お菓子二袋、ところてん、おはぎ二個などが特食として出ました。しかし、この間は舎房に閉じ込められ放しでした。入浴のために一度外に出ただけだったのです。

塀の中に居てはお菓子など甘いものなどを食べるのが楽しみです。西瓜は三個食べました。アイスクリームは今年はまだ出ないのですが、ビニールパックに入ったジュースを凍らせたもの二分の一が3回出ています。

数日前は前橋の花火の音だけが激しく聞こえました。私の居る舎房の前後にやはり舎房の建物があるので花火は見ることはできませんでした。残暑はまだまだ厳しいものが残ります。くれぐれも健康に留意して過ごしてください」

酷暑とされた平成28年の今夏も、後半は天候が不安定でトリプル台風が襲来したりと、予想に反して期間全体からすればどうやら冷夏だったようだ。巷で暮らしていると受刑者達の涼への渴望はとても想像ができないが、こうして過去を振り返ることで、私は苦しかった「原点」を忘れまいと心に決めている。

吾が影に罪あるごとく引きずりぬ夏の日差しに濃く縮みゐて

香を放つ珈琲給ふ食堂の一步踏み入る時のゆたかに

赤とんぼ
山の日暮れに
母思ふ

特選句

まこ
子供が母を恋うのは人も動物も同じだが、人は大人になっても時に母を恋しく思う。里を遠くに暮らしたり、苦しい事があると猶更(なおさら)である。母にはそうした思いを包む優しさがある、最近はその殺伐な事件も多く哀れを思い、また童謡を懐かしむ句でもあります。

飛びゆく
赤蜻蛉には
空がある

特選句

あべ
空を飛べるのは鳥を始め虫や蝶などいるが、赤蜻蛉(あかとんぼ)の飛ぶ空は高くはないが一抹の哀れを思ふ空でもあり親しみもあります。またそれは人には飛べない空で自分の日頃の生活を打破したい希望の空でもあります。蜻蛉への憧れと自責の句で哀れも思います。

目高の子
目玉二つで
泳ぎける

特選句

ゆたか
私は釣りで鯰(はぜ)やシラスなどの稚魚を見掛けますが、この詠の様に目だけで泳ぐ感じですが、ことに目高(メダカ)は大きくなっても数センチなので実感です。俳諧の哀憐の一句で微笑ましい。

今月の秀逸句

赤とんぼ
利根の縄手に
群れて飛ぶ

おの

赤蜻蛉には夏茜(なつあかね)の橙色と秋茜(あきあかね)の深紅のがあるが、利根の広い田の縄手道などに群れ飛ぶのは哀愁を誘う。童謡を思い、故郷を思い、子の日の友を懐かしむのも赤蜻蛉で実景の句です。

東京に
なつかし蜻蛉
里思ふ

しげ

東京は世界に名だたる都会だが案外と公園など多い。皇居を始め上野、代々木、新宿御苑、向島百花園、小石川植物園、などで思わぬ蜻蛉などに会う。また東京には地方からの人も多く、赤蜻蛉に出会うと里を懐かしく思う実感の句です。

秋茜
薄の原に
よく似合ふ

こば

この鹿島・潮来・佐原は水郷とも言われ湖沼も多いが、蘆(あし)や薄(すすき)も多くそれが水郷の景でもあります。その薄の原に飛ぶ秋茜は一抹の淋しさを込めて風情があり、子の日をも思う。また筑波山の裾野のなどの薄原を彷彿する句でもあります。

朽ち杭の
一本が好き
赤とんぼ

ゆたか

池や川には水深の目安や魚獲りの仕掛けの杭などが立っていますが、いつの間にか風雨に朽ちているのが多い。その杭を自分の住処の様に、飛んでもまた帰って来る。その赤蜻蛉が水に映るのも美しい句で、潮来の十二橋などを思います。

赤とんぼ
帽子の上で
ひと休み

ひろ

蜻蛉はなぜか人を余り恐れないので他の昆虫より親しい。立ち止まると来て肩や帽子、釣り竿などにも止まる、また散歩などでしばらくは止まったままや付いて来るのもある。実感の哀憐の句です。

秋茜
遠きメールに
恋ひ結ぶ

あお

原句は少し変えましたが、これで原句の思いの伝わる現代的な詠になります。中七を「遠き手紙に」でも良いですが、今はメールの時代なので遠距離の恋人同士を想像し、一句としました。

佳作

迎えてね夕焼け蜻蛉私をね かこ

赤とんぼ夕焼け空に群れて飛ぶ ゆうこ

赤蜻蛉見つけて思ふ野路の秋 あみ

赤とんぼ里の夕焼け懐かしき いるか

赤とんぼ夕焼け小焼けまた明日 なあな

見つけたよ浦の小道の赤蜻蛉 れいこ

季節のね約束だよね赤蜻蛉 しま

赤とんぼ夕日に染みていと赤き めい

夏終えて見れど淋しき赤蜻蛉 たかこ

野路に来てこの指止まれ赤とんぼ そら

幼な日や夢中に追いき赤蜻蛉 まさる

赤とんぼゆかりの肩に一休み けん

指先に何故か止まるよ赤とんぼ みく

虫の声早やも夕べの秋思ふ ひろ

大利根に繋ぐ野川の赤蜻蛉 とむ

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「トンちゃんの回復記」

第6回

福島原発事故の除染作業の実態を垣間見る

次兄の死に遭遇した辺りから、自分の生活環境は悪化の一途を辿った。ある日、次兄が暮らしていた実家に電気料金の督促状が舞い込んだ。なけなしの金を持ってすぐに払いに行ったが、なぜかすぐに電気が止められた。なんと次兄はそれ以前の支払いをも滞らせていたのだ。兄の机の中に別な督促状を発見したものの、もはや自分には打つ手はなかった。水道も止められ、風呂にも入れなくなった。「これで死ぬ訳ではない!」と開き直り、造園屋の賃仕事でかろうじて命を繋いだ。しかし、これも打ち切られる事態に。

いつもは仕事先から迎えの車が来るはずなのに、その日に限り何時まで待っても待ち合わせ場所に迎えが来ない。先方は「迎えに行った」とうそぶいたが、自分をクビにする口実で、体のいいお払い箱だった。仕事ぶりは評価されていたので、今もって自分がなぜクビを切られたのか、釈然としない。悔しかったが、もはや打つ手がなかった。そんな中でも夜になると、仕事仲間だった年寄り連中が酒を持って立ち寄っては、一緒に飲んだ。さすがに自分も「このままではいけない。なんとかしなければ…」との焦りから、意を決して市役所に泣きついた。そして事情を話し、かつての務め先だった土地にある福祉作業施設を紹介された。自分からすれば完全な誤解というか濡れ衣なのだが、ルールに反して飲酒したとの指摘を受けてすぐに退寮処分となった。自分の言い分など一切聞かずに、一方的で理不尽な扱いだった。

もはや行く当てもなく、仕方なく自分は実家に舞い戻った。運悪く、そこに高校時代に付き合ったヤクザの兄貴がやって来て、親切風を吹かして市役所で生活保護受給の手続きをしてくれた。何かしら意図があるのは明らかだった。間もなく大阪にいる彼のムショ仲間が「いい働き口がある」と誘いを掛けてきた。福島原発事故による除染の仕事だった。急ぎ、迎えの車で福島に向かった。最初の一週間は厚遇されたが、やがて本性を現した。とてもノルマが厳しく、肉体を酷使する過去にない労働環境と放射能汚染の恐怖に耐えながら、食費も満足に貰えないまま、ほとんど無給で働かされた。やがて仕事を請け負った仕切り屋がヤクザ者だと分かり、発注先から仕事を全て切られてしまった。そのヤクザは仕事を失った原因を自分らに求め、「さんざん世話したんだから、何とかしろ」と逆に自分達を脅しにかかった。ヤクザが相手では分が悪く、下手をしたら命を失いかねない。自分は金策に奔走し、親戚筋や友人に泣きついて頭を下げまくり、やっとの思いで30万円を作り、そのヤクザに渡した。手切れ金は、とても高かった。福島にまったく土地勘のない自分は途方に暮れた…。

(以下、次号に続く)

8月のバースデー

モト



明けない夜はない

こうじ



退寮を目指します。

よこ



OK

帰ってきた がく



お盆で里帰ります。

8月の行事予定

- 8月6日 大和ハウス納涼祭(太鼓)
 8月7日 和太鼓発表
 8月8日 潮騒海水浴(スイカ割り・バーベキュー等)
 8月10日 エイサー演舞(大野の里)
 8月14・20日 秋元病院メッセージ
 8月15日 鹿島灘太鼓演舞(鉾田)
 8月18日 潮騒俳句会
 8月28日 潮騒家族会

9月の行事予定

- 9月2~4日 NA北海道コンベンション
 9月22日 第7回リカバリーパレード「回復の祭典」

献金・献品を頂いた方(8月15日現在)

- | | |
|-----------|--------------|
| ・K&G 企画 様 | ・鹿嶋市 佐藤 浩 様 |
| ・トーマス 様 | ・流山市 内堀 高良 様 |
| ・横堀 様 | |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
 本当にありがとうございました。
 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援
 くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
 ありがとうございました。
 ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいて
 おります。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

7月下旬に妻が予期せぬ病で倒れ、その日のうちに急逝した。動揺と混乱の中でなんとか葬儀を終えたが、心が定まらないまま日常に戻り、深い喪失感に陥っている。共に30代後半での結婚だったので夫婦生活は27年ほど、でも濃密で楽しい時間を共有した。たまたま長男が重い知的障害のダウン症で生まれたことが、夫婦の絆を強くした。人知れず悩み苦しんだ時期もあったけど、世間に合わせることも自分達の信念を優先させて生き抜くことができた。その事を援護してくれたのが、ダルクであり潮騒だった。障害者を持つ家庭にとっても「いい加減」こそが「丁度良い加減」であり、世間の“くびき”から解き放されて比較的自由に、楽に生活できた。そして「自分に変えられないものを受け入れる落ち着き」を手にできたし、「変えられるものを変えてゆく勇氣」(ニーバの祈り)ももらった。それにしても金銭管理も含め何もかも妻に頼りっぱなしだった。そのツケが一気に回ってきて面くらっている。重度障害の長男との二人暮らしを、今後どこまでやり切れるだろうかという不安は消えない。いよいよダメになったら、その時は社会に託すしかない。時としてくじけそうになる自分を鼓舞してくれるのが、栗原センター長の生き様だ。もう少しで僕は、ダルクで回復したセンター長が孤立無援の状況下で潮騒の前身施設をスタートした年齢になる。目の前に人生の手本となる珠玉の人がいることで、僕はとても勇氣づけられている。手を挙げるにはまだ早い!(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2016年8号

Contents

- P② 今夏の総括と意見
 ~リオ五輪と障害者施設事件から
- P③ 真夏の海プログラム
 ・男性入寮者の感想文
 ・女性入寮者の感想文
- P⑦ 男女混合交流会
 自助グループ・バースデイ
- P⑧ ユタカ VS トム 対談 第8回
 「潮騒の名称変更は大人のいい知恵の出し方だった」
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「赤蜻蛉」
- P⑭ どっこい私も生きてます「トンちゃんの回復記」第6回

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田
 〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



